

関わり続ける定住のカタチによる結の故郷づくり／ 単位認定実習授業「地域再生（大野）」の開講



「地域再生（大野）」集合写真

学生と地域の協働
ボトムアップ型のまちづくり
集住環境のデザイン

DATA

- **主な連携先・メンバー**
大野市／横町編集部／日吉町1区自治会／日吉町4区自治会／一般社団法人カンデ
- **活動地域**
福井県大野市城下町周辺
- **活動期間**
連携協定 2018年～継続中
「地域再生（大野）」2024年～継続中
- **活動資金**
大野市受託研究費、「地域再生（大野）」運営費

目的

本学の学生が福井県大野市のまちづくりに関わり続けられる環境を創出することを目指して、城下町エリアを対象フィールドとする単位認定実習授業を継続して開講した。

活動内容

「地域再生（大野）」は、二泊三日の滞在型集中講義と地域再生ワークショップの計2回の参加等で単位取得ができるプログラムである。実施2年目となる2025年度は、教員1名、非常勤講師1名、TA1名に加え、横町編集部、日吉町1区・4区民が運営支援に入り、2～4年生13名が履修した。

滞在型集中講義では「城下町の暮らしを体験し学ぶ」をテーマとし、旧春日通り商店街に面する空き家で実際に進行している活用事業を題材として扱った。空き家と隣接広場の設計提案や、春日通りの地域発展経緯の分析など、地域課題に即した内容で行った。

地域再生ワークショップは滞在型集中講義の実践として位置付けている。第1回は最終報告会後に地域住民との交流会として実施した。第2回

地域住民へのヒアリングの様子



最終報告会後に
地域住民との交流会を実施

連携に至る経緯

2017年、建築環境デザイン研究室は、大野市にて地域拠点を開設するため空き家調査を実施。同年、空き家を借り上げて地域拠点横町スタジオと命名し、開設のためリノベーションを実施。2018年、1年間の現地での活動に基づいて、連携協定を締結した。

以降は、空き家活用に取り組む市内民間事業者などと協働し、冊子づくりWS、アロマウォーターづくりWS、年賀状づくりWSを企画し、地域住民も参加できる形とした。学生は住民と積極的に交流し、各WSでリーダーシップを発揮した。

取材やインタビュー、実測調査等の観察によって情報を得ること、それを基にアイデアを組み立て住民に伝える実習を通じ、今後の研究活動や実習科目の基盤を養うことを目標としている。

地域の子もたちと冊子づくりWSに参加



連携先からの一言

今年度の「地域再生（大野）」では、13名の学生が大野市で活動いただきました。大学がない大野市においては、連携事業を通じて学生にまちづくりに関わっていただくことは大変意義深く、今後の更なる発展に期待しています。

（大野市政策推進課 廣瀬氏）

活動の成果

- ≫ 空き家活用事業を題材に実践的な地域学習を行えた。
- ≫ 住民参加型WSを通じ学生が地域と協働する経験を得た。
- ≫ 調査・観察にもとづく提案づくりの基礎力を養った。

環境都市工学部 教授 北詰 恵一 Kitazume Keiichi



専門は、土地利用・交通モデル開発、公共事業評価、地域再生等である。産官学民連携による新しい政策技術の開発・実施を手掛け、地域再生や社会システムの構築を目指す。



今後の課題・目標・展開の可能性

- ≫ 行政との協議に基づき授業課題を共同設定する。
- ≫ 現場に即した実践型の課題設定を強化する。

合同会社 SAJIHAUS 代表社員 非常勤講師 出町 慎 Demachi Makoto

専門は、建築設計、地域再生等である。兵庫県丹波市を始め、各地で空き家リノベーションを手がけ、そこを拠点に地域再生を実践している。一級建築士。

横町編集部 川口 昶司 Kawaguchi Takeshi

関西大学建築学科卒。横町スタジオを拠点に、スタジオを運営する横町編集部の一員としてまちづくりを実践している。大野市地域おこし協力隊。一般社団法人カンデ所属。